

ご挨拶

「人びとの幸せにつながる多様な福祉の課題を解決する」ために研究者と福祉現場の従事者が相互に研鑽をしていくことが本学会の使命の一つであります。そのためには、これまで以上に現場の実践に密着した協働的な研究が大切になります。

そこで、第 11 回にあたるこの大会のテーマを「支援の質の向上に貢献する福祉心理学」と題して、福祉心理学研究が福祉現場でどのように機能しているかを考慮できる内容を検討してみました。

基調講演で、西南学院大学教授の安部計彦先生より「生活の安定と心のケア～児童虐待の経験から～」と題して子どもたちの生活場面におきている問題を中心に講演をいただきます。

学会企画シンポジウムでは「今、福祉心理学に求められる社会的養護の課題と展開」と題して児童福祉領域での今日的な課題が著名なシンポジストによって熱く論じられる予定です。

大会準備委員会のシンポジウムでは 2 つのテーマが討論されます。その 1 つは、行動障がいを抱える人たちの地域生活の支援に関する今日の実践と今後の展望についてです。2 つ目は、児童養護施設等での実践と研究の協働作業に関する内容が討論される予定です。自主シンポジウムでも関連して「福祉心理実践の現状と課題」で施設等の福祉心理士の役割についての討論が予定されています。

ポスター発表に関して従来の学会と少し違っている点は、現場からの発表が多くなっていることも本大会の特徴としてあげられると思います。

第 11 回大会が開催される福岡市は、博多山笠の最終段階で盛り上がっている時期でもあります。本学会もこの機に学会の意義確認と今後の発展のために多数の参加をいただき、充実した会になることを願っております。

2013 年 7 月

日本福祉心理学会第 11 回大会準備委員長

野口幸弘